学 校 紹 介

那覇高等学校

●平成25年度

(1) 高校総体 男女総合準優勝 (男子4位、女子2位)①剣道男子団体優勝、個人1・2位、女子団体2位個人2・3位、②ボクシング団体優勝 (4階級5人入賞)、③バスケットボール女子優勝、④ウエイトリフティング女子69kg級優勝、⑤サッカー女子3位、⑥空手女子個人型3位、⑦自転車4km速度競争3位、⑧水泳男子団体3位(7競技入賞)、女子団体2位(4競技入賞)、⑨陸上5競技で入賞

●平成24年度

(1) 高校総体 女子優勝 ①剣道男子団体2位個人2位、女子団体2位個人1・2位、②ウエイトリフティング女子69kg級2位、③バスケットボール女子2位、④ボクシング団体2位(4階級入賞)、⑤陸上5競技入賞、⑥水泳女子団体3位(10競技入賞)、⑦自転車スプリント3位、⑧バレーボール女子3位、⑩デニス女子3位、⑪弓道男子団体3位、個人3位、⑫空手男子個人型3位(2)新人大会 ①陸上6競技入賞、②テニス女子3位、③水泳10競技入賞、④弓道男子団体優勝、⑤自転車3競技入賞、⑥ウエイトリフティング女子69kg級優勝、⑦バドミントン女子ダブルス3位、⑧ボクシング団体優勝3階級入賞、⑨剣道男子団体優勝個人1・2位、女子団体優勝個人1・3位

●平成23年度

(1) 高校総体 ①ボクシングライトウエルター級優勝、②陸上男子5000m 2位、③水泳10競技で入賞、④剣道男子団体2位個人2位、女子団体2位個人1・3位、⑤バスケットボール女子2位、⑥弓道男子団体2位、⑦テニス女子3位、シングルス3位、⑧ウエイトリフティング女子69kg級3位

(2) 新人大会 ①陸上4競技入賞、②水泳男子団体3 位 (男女13競技入賞)、③剣道男子団体2位個人1~ 3位、女子団体2位個人1位、④ウエイトリフティ ング女子69kg級2位、⑤バスケットボール女子2位

●平成22年度

(1) 高校総体 学校対抗:男女総合3位(女子2位) ①バスケットボール女子優勝、②水泳女子総合2位 (男女14競技入賞)、③陸上女子100m 3位、④ウエイトリフティング女子69kg級優勝、④ボクシングウエルター級優勝、ライトウエルター級2位、⑤剣道男子団体2位個人2位、女子団体2位個人2・3位、⑥サッカー男子2位、⑦弓道女子個人3位(2) 新人大会 ①陸上3競技入賞、②水泳女子総合2位(男女15競技で入賞)、③ウエイトリフティング女子58kg級優勝、④剣道男子団体優勝個人2位、女子団体2位個人2・3位、⑤ボクシング団体2位(2階級優勝)

●平成21年度

(1) 高校総体 学校対抗:男女総合3位 ①剣道

男子優勝個人1位、女子団体優勝、②ウエイトリフティング女子団体3位(3階級で優勝)、③ボクシングモスキート級優勝、ウエルター級2位、④水泳男子総合3位、女子総合2位(11競技入賞)

(2) 新人大会 ①陸上4競技入賞、②水泳女子総合2位(男女10競技入賞)、③ウエイトリフティング女子69kg級優勝、④剣道男子団体2位個人1・3位、女子団体2位、個人1~3位、⑤ボクシングウエルター級優勝、ライトフライ級3位

●平成20年度

(1) 高校総体 学校対抗:男女総合3位 ①剣道女子団体優勝個人1位、②ウエイトリフティング女子団体2位(男女3競技で入賞)、③水泳女子総合2位(13競技で入賞)、④サッカー男子3位、⑤弓道女子3位、⑥テニス男子3位、女子3位、女子ダブルス2位、⑦ボクシングフライ級2位

(2) 新人大会 ①剣道男子団体2位、女子団体優勝、 ②水泳男子総合3位、女子総合2位(9競技優勝)、 ③ボクシング3競技入賞、④弓道男子団体2位、⑤ フェンシング女子エペ・フルーレ優勝、⑥卓球女子 団体2位個人優勝、⑦ウエイトリフティング女子団 体優勝(男女5階級入賞)

●平成19年度

(1) 高校総体 ①剣道男子団体優勝、②自転車3 競技優勝、③ウエイトリフティング男子56kg級優勝、④水泳8競技優勝 (2) 新人大会 ①弓道女 子団体優勝、②水泳9競技優勝、③自転車4競技優勝、④ウエイトリフティング女子48kg級優勝

●平成18年度

(1) 高校総体 ①水泳女子総合2位(7競技入賞)、 ②弓道男子個人優勝、③ボクシングモスキート級3 位、④剣道男子団体2位、⑤ウエイトリフティング 女子48kg級2位

(2) 新人大会 ①水泳女子総合3位(5競技入賞)、 ②自転車3競技優勝、③ウエイトリフティング男子53 kg級優勝、④剣道男子団体優勝、女子団体3位、⑤ボ クシングライトフライ級2位、⑥弓道女子団体優勝

●平成17年度

(1) 高校総体 ①弓道女子団体 2 位、②水泳 9 競技入賞、③バスケットボール女子 3 位、④テニス女子 3 位、ダブルス 2 位、シングルス 3 位

(2) 新人大会 ①水泳2競技優勝、②剣道男子団体3位個人3位、女子団体2位個人3位、③テニス女子3位

●平成16年度

(1) 高校総体 ①サッカー男子2位、②剣道女子個人2位、③空手女子団体組手3位、④水泳女子総合3位(男女9競技入賞)、⑤テニス女子シングルス3位

(2) 新人大会 ①水泳6競技入賞、②テニス女子3位、 ③バスケットボール女子3位



学 校 紹 介

那覇工業高等学校

本校は、昭和40年6月2日琉球政府立那覇産業技術学校として、安謝橋(浦添市勢理客)の西海岸沿いに開設され、昭和47年5月本土復帰により沖縄県立那覇工業高等学校に移管され、今年で48年目を迎えます。

本校には、機械科、自動車科、電気科、グラフィックアーツ科、服飾デザイン科の5科を設置しています。自主・勤労・敬愛の校訓のもと、よく学び、よく働くことをモットーに毎日楽しい学校生活を送っています。

今年度は、生徒695名 (21クラス)、職員95名で、 工業の各分野や服飾デザインの各分野の学習、各種 資格検定の取得に日々励んでいます。

運動部活動では、野球部、男女バスケットボール部、サッカー部、男子硬式テニス部、男子バドミントン部、ソフトボール部、弓道部、ダンス部が活動しています。

さらに今年度は、運動部同好会としてボクシング、自転車競技、卓球、女子硬式テニス、陸上競技の5つの競技種目が立ち上がり、益々運動部活動が 賑わってきています。

なかでも、野球部と男子バスケットボール部の活躍は目覚ましく、第60回沖縄県高等学校野球春季大会(野球部)、平成24年度沖縄県バスケットボール大会(バスケ部)で共にベスト16に勝ち上がりました。



過去の実績 平成21年度

県総合体育大会ウエイトリフティング男子 個人 105kg超級 2位下地慎吾(2年)

ボクシング ライトウェルター級 3 位金城安孝 (3位)

第37回ウェイトリフティング個人選手権大会 69kg級 1位 稲嶺貴亮(1年)

新人体育大会テニス競技男子団体 Bブロック 優勝

ウエイトリフティング大会 69kg級 3位 稲嶺貴亮 (1年) 105kg級 2位 當山昌吾 (1年) 105kg超級 2位 棚原 匠 (2年)

平成22年度

県総合体育大会 ウエイトリフティング 69kg級 3位 稲嶺貴亮(2年) 105kg超級 3位 下地慎吾(3年)

第47回高校ボクシング競技大会 バンタム級 2位 崎浜秀司 (2年)

琉球新報旗争奪大会(ウエイトリフティング) 69kg級 2位 稲嶺貴亮(2年)



自主・敬愛・飛躍

那覇国際高等学校

本校は、21世紀を展望し、国際化や情報化の進展に対応する高度な情報機能と快適な学習環境に配慮したインテリジェント・スクールとして、平成10年4月に開校しました。開校以来、校訓「自主」「敬愛」「飛躍」のもと、「一人一人の個性の伸長に努め、創造性・国際性・協調性を培い、時代の変化に柔軟に対応し、国際化、情報化の社会において活躍できる、心豊かで、逞しく生きる主体的な人間を育成する」を教育目標に掲げ、県内トップレベルの進学校をめざし、生徒、職員、保護者、そして地域が一体となり、様々な努力を重ねております。

設置学科は、普通科 (8学級)及び国際科 (1学級)、1学年の定員は普通科320人、国際科40人の計360人です。普通科の目標は、多様なニーズに応える進学対策の推進や国際社会で活躍できる能力の育成であり、国際科は英語で表現する力を伸ばすことや個々のニーズに合わせた進学目標の実現を図ることにあります。普通科の特徴は、希望進路に応じた普通科目の充実であり、国際科は「時事英語」や「英語表現」など専門科目を学び、英語を多読・多聴するなど英語力を総合的に伸ばすことにあります。

本校の教育の特色は、学校の精神「右文尚武」の示すとおり、学業を尊び部活動に励んでいることにあります。そのことは、授業を中心とする徹底した学習活動と部活動の活躍に端的に表れております。早朝講座や長期休業期間における講座の実施、「シラバス」の活用、60分を単位とした授業の継続的実践、第2外国語の選択、セミナーハウスでの放課後の自主学習をとおして、学習・進路の面において大きな成果をあげており、県内有数の進学校としての地位を築きつつあります。

他方、部活動においても目覚ましい活躍が見られます。これまで文化面では、放送コンテスト、英語弁論大会、英語ディベート大会、囲碁将棋大会や各種音楽コンテストでの活躍があります。英語ディベート大会においては、開校当初から力を入れており、県大会や九州大会で優勝するなど上位入賞を続けております。映画研究部も昨年度及び今年度の高校総合文化祭放送部門において優秀賞を受賞しております。化学部も県代表として九州大会に派遣されるなど活躍しています。スポーツ面でも、陸上や水泳競技において、県内大会で優勝し県代表として九州大会や全国大会に出場しております。その他にも、第31回全九州珠算選手権大会で個人総合競技2位、

エコノミクス甲子園地方大会優勝などもあります。 今年度は、野球部やバスケットボール部など21の 運動系部及び吹奏楽部やダンス部など17の文化系 部においても多くの生徒が活動しています。

国際化への対応も充実しております。国際会議室やALT等を活用した同時通訳講座やイングリッシュキャンプなどの実施による語学教育の充実やフランスや米国など海外の高校生の受け入れや交流、県費や国費等による長期及び短期留学、マレーシア・シンガポールやボストンへの短期研修、Millennia Institute (シンガポール)との姉妹校締結など、諸々の良きシステムが導入され、今日まで引き継がれる等、国際交流活動が盛んであります。

また、文部科学省より「平成24年度英語力を強化する指導改善の取組」、「平成25年度英語力によるコミュニケーション能力・理論的思考力を強化する指導改善の取組」の研究指定校を受けております。その一環として「スピーキングテスト」と「ライティングテスト」の研究をとおして、授業改善と英語力向上のため全職員一丸となって取り組んでおります。

本校は、創立16年目を迎えました。人間に例えますと思春期に相当し、那覇国際高等学校としてのアイデンティティを確立する時期となります。本校も教職員、生徒、保護者が一丸となって校訓に掲げられた理念を受け継いで、特色ある学校、創造性に満ちた学校づくりに邁進していきたいと考えております。

本校の使命は、国際社会において活躍できるリーダーとしての基礎力を育成することであります。そのために、論理的思考力、創造力などを備えた考え行動する人、国際社会で通用する豊かな教養や語学力など備えた人、ボランティアなど社会貢献の精神を備えた人、社会規範意識を備えた人の育成に努めております。

在校生に望みたいことは、この15年、先輩達が 築き上げてきた尊い歴史と偉大な足跡に今一度学ぶ と共に、それらをさらに発展させ、新たな歴史と伝 統を築き上げるべく、不断に精励することでありま す。那覇国際高校の生徒としての誇りを持ち、21 世紀の新しい担い手として活躍できるよう一層心身 を鍛え、学業等に励むことを期待しています。



伝統校としての誇りと自信を胸に

那覇商業高等学校



本校は、明治38年9月に「沖縄県那覇区立那覇商業学校」として那覇区内久茂地の南陽館(現在の沖縄県庁舎の所在地)を仮校舎として開校しました。明治・大正・昭和・平成という4つの年号の流れの中で、校舎壊滅や移転、校名変更などがありましたが、「那覇商業」の名は消えることなく、校訓である「士魂商才」「自主独立」の精神を今日まで脈々と受け継ぎ、平成17年には創立百周年を迎えました。

経済界、産業界に有為な人材を数多く輩出している本県商業教育の伝統校として、現在、全日制課程及び定時制課程併せて1,200名余の生徒が在籍しています。全日制課程には、商業科・会計科・情報処理科・国際経済科の四学科9クラス×3学年=27クラス。定時制課程には商業科の1クラス×4年次=4クラスが設置されています。

生徒たちは、伝統校としての誇りと自信を胸に、いつの時代にも対応できる心豊かな産業人となるべく、日々明るく多彩に学校生活を過ごしています。本校の部活動は、文化系体育系に関わらず盛んに行われています。特に商業教育関係の部活動は、九州大会及び全国大会出場常連校として、その名を馳せています。

体育系部活動においては、ソフトテニス部及び水球部が強豪校として安定した実績を残しています。 特に水球部の本校卒業生である伊禮寛が全日本選手として活躍していることは特筆されます。また近年、女子サッカー部が県大会で上位入賞を果たしていて、今後の活躍が期待できます。

ここ数年来、校舎改築の影響で校内グラウンド等が思うように使用できないというハンディを抱えています。野球部を始めとする各部は、この逆境をチャンスに変え、独自の練習メニューを生み出し、自ら考え行動できる選手育成につなげています。この様な創意工夫の精神で、更なる部活動の活性化を図り、魅力ある学校づくりに向けて、職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

◆各部の実績◆

ソフトテニス

平成16年 県高校新人大会 Bブロック団体優勝

17年 県高校新人大会 団体3位

22年 県高校総体・新人大会 ベスト4

23年 県高校総体・新人大会 ベスト4

24年 県高校総体 団体 4 位 県高校新人大会 団体 3 位

25年 県高校総体 団体 4 位

水球部

16年 国体九州ブロック大会 優勝 全国高校総体 ベスト8

17年 国体九州ブロック大会 優勝

19年 九州高校新人水球大会 3位

20年 全九州高校水球大会 3位

21年 国民体育大会 7位

22年 美ら島沖縄総体 ベスト8

水泳部

17年 全九州水泳大会 平泳ぎ100M 2位

18年 全九州水泳大会 平泳ぎ

100M · 200M優勝

陸上部

17年 国民体育大会 男子円盤投げ6位、 女子砲丸投げ7位

18年 全九州新人大会 砲丸投げ優勝

19年 全国高校総体 砲丸投げ5位

弓i

16年 沖縄タイムス杯 個人優勝

18年 全国紫灘旗高校弓道大会 団体 9 位

空手

22年 九州南ブロック新人大会 個人型 3 位 ボウリング部

21年 県高校総体 ハイゲーム賞優勝 県高校新人大会 団体 4 位

25年 県高校新人大会 団体2位

女子サッカー部

18年 県高校総体 準優勝

23年 県高校総体 ベスト4

24年 県高校総体 準優勝





本校体育系部活動の足跡

那覇西高等学校

本校は高体連創立後32年を過ぎて創立され、平成27年に創立30周年を迎える歴史の浅い学校です。 しかし、多くの全国レベルのアスリートを輩出し優秀な指導者を育成してまいりました。

東門の「栄光の足跡」と「全国制覇」の碑、併せて「文武両道の広場」にディスプレイされている無数のトロフィー・盾・賞状が生徒達の活躍を物語っています。



また、本校は県高校総体において平成6年の学校 対抗男女総合優勝を皮切りに総合優勝を14回、総 合準優勝を4回成し遂げました。これは、本校に県 唯一の体育科(学年1クラス)が設置され、複数部 が県強化推進運動部として指定を受け技術指導が強 化されていることも一因ですが、学校全体が一丸と なり「武により文は支えられ、文により武は高めら れる。両道とは一体を意味する。」という文武両道 の精神の下、部加入奨励・部活動と学習指導の連 動・態度教育の推進に取り組んできたことも大きな 成果であることは否めません。

平成25年度の本校の部加入率は5月に開かれた生徒総会資料によると76% (815名)。そのうち体育系は673名です。部員数の順で並べてみると男子サッカー(103名)、男女ハンド(70名)、野球(66名)、男女陸上(60名)、男子バスケット(52名)となります。レギュラーとなって檜舞台で活躍出来るのは各部ほんの一握りですが、勝利や敗北は全員で共有します。たとえ、三年間レギュラーになれなくとも一流選手と共に鍛えた心身は社会に出た後に日の目を見ることも多く各地で那覇西魂を発揮している卒業生は少なくありません。

県強化推進運動部以外にもソフトテニス、硬式テニス、弓道、女子サッカー、バドミントンが県レベ

ルで成績を伸ばしつつあり、バレー、バスケット、 卓球、野球、剣道、水球、空手等も先輩達から受け 継いだ伝統を守り自部の部活文化に誇りをもってお ります。ダンス部は部員数40名でボランティア部 同様地域との交流を行いながら活動しており、近隣 の児童館等から頼りにされております。

本校の水泳部は県下では団体において右に出る チームはありませんが初心者も多く、入部当初は全 く泳げない生徒もいることはあまり知られておりま せん。学校体育の下で計画的かつきめ細やかな指導 を行い競技力を向上させていることが他のライバル チームにない特徴です。

本校は試合に出場する選手だけが戦うのではなく 部員や学校が一体となって戦います。合い言葉は "Go for Win"。応援歌は校歌。今年も各試合会場に おいてアカペラの校歌が高々と響きました。決勝応 援ツアーへの参加は希望者を募り、各自が応援タオ ルを携え、バスをチャーターして、選手と共に闘い に行きます。

沖高体連創立60周年の今年、那覇西高校は高校総体総合3位でした。沢山の無念の涙を流しましたが次年度に向けてさらに学校の絆が深まりました。他校がますます強くなっていくことにうれしい脅威を感じつつ本校は未来に向かって弛みなく精進してまいります。

最後になりましたが、本校の生徒達が国際的にも その名を轟かせることが出来るのはこれまでの指導 者・歴代校長はもとより保護者の物質的・精神的支 援、外部コーチの献身的な指導、そして地域・行政 のご理解・ご協力の賜です。今後とも生徒達が世界 へ羽ばたくアスリートや指導者になれるよう見守っ て下さることをお願い申し上げます。



学 校 紹 介

南部工業高等学校

1. はじめに

本校が設置されている八重瀬町は、沖縄県南部に位置し、人口2万6千人の町である。特産品にはサトウキビがあり、全体的に豊な土壌に恵まれ、古くから農業の盛んな地域である。また、沖縄戦跡国定

指な南重志ぐ浜緑海にる八具、めいいは、いいなど美を関い、、いいのではなどがある。



る地域で、優れた海洋景観も呈している。

2. 本校の概要

本校は、昭和44年4月に、工業関係の技術者を養成するため、自動車整備科、電気科、板金溶接科、家具木工科の4科100名で開校した。その後同年12月9日に琉球政府立南部産業技術学校として設置され、昭和45年4月に機械科、電気科、自動車科、木材工芸科でスタートした。さらに、昭和47年4月には、学科の統廃合により機械科、電気科、設備工業科の3科に改編された。また、5月15日の日本復帰とともに沖縄県立南部工業高等学校に改称し、南部地域を中心とした工業高等学校として、たくさんの卒業生を送り出し、県内外の産業界、経済界はもちろん国外でも活躍する人材を輩出している。今年で創立44年目を迎えた。現在、機械科、電気設備科の1学年2クラスの計6クラス、全校生徒199名の小規模校である。

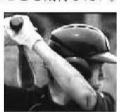
校訓の「和衷協力・自主自立・創意工夫」の下、教育目標に「憲法、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、豊かな教養と工業に関する基礎的・基本的な知識、技術を身に付けさせ、国際的な広い視野に立って、社会の発展に貢献する心身共に健康で心豊かな人間を育成」を掲げ、「自分の目標をしっかりと持ち、それに向かって日々努力する生徒、服装容儀を整え、清潔ですがすがしい好感のもてる生徒、自分を大事にし、他人をも大事にする思いやりのある生徒、美しい環境を整えることのできる生徒の育成」に取り組んでいる。そして、保護者や地域・関係団体との連携の充実による開かれた学校づくりを

推進し、「地域に根差した工業高校」「ものづくり教育を通した人材育成」実現のため、キャリア教育、人権教育の充実と就職率・進学率の向上を目指して、教職員、生徒が一丸となって目標達成に努力している。

進路状況は、就職が主であるが、進学にも力を入れている。平成24年度の卒業生の就職内定率は98%、進学合格率は86%、進路決定率は94%と高い実績を残した。進路決定率の高さには、各科で取り組んでいる、高度な資格・検定の取得も一因である。第1種電気工事士に、単年度で18名合格と県内トップの合格者、2級技能士の多数合格など、生徒の頑張りが顕著にあらわれている。また、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度には、毎年多くの生徒が申請・認定を受けている。

部活動では、本県を代表するウエイトリフティング部を中心に、体育系では、野球部、バスケット部、バドミントン部、硬式テニス部、卓球部、駅伝・陸上部、サッカー、ボクシング、自転車同好会がある。文化系では工作部、ロボット製作部、放送部、JRC部、科学同好会がある。中でも、ウエイトリフティング部は、平成2年、5年、22年に全国総体で団体優勝している。ロサンゼルス五輪で5位に入賞した平良朝治選手は本校7期生である。今後のオリンピックで、是非メダリストが出ることを期待したい。







3. 終わりに

平成24年度に県立高校編成整備計画における他高校との統合が見直され、今後の南部工業高等学校の活性化が期待されている。産業教育の充実を目指すとともに、魅力ある学校づくりを推進し、これからも変わることなく『匠のこころ』を身につけた心豊かな生徒の育成を全職員で図っていく。



本校の特色と各競技の成果

南部商業高等学校

本校は、本島南部の商業高校として昭和46年4月8日に開校し、平成25年度で創立43年目を迎える。創立以来「明朗」「強健」「誠実」を校訓としており、しっかりとした人格の形成とともに、社会の発展に貢献できる将来の産業人・経済人の育成を教育目標としている。

現在、本校には「流通ビジネス科」2クラス、「OA 経理科」1クラス、「情報ビジネス科」2クラスの 計5クラスが設置され、全学年では15クラスの学 校規模である。

流通ビジネス科では、起業家の育成や、営業・販売のプロの育成を目標とし、経営活動等専門科目の勉強を中心とした教育課程が編成されている。特色ある取り組みとして、販売実習を年3回ほど実施している。「D-1グランプリ」と称した第2回販売実習では、生徒たちが授業で実際に企画開発した菓子類を作成し販売する取り組みを行っている。

OA経理科では、会社の経理・税務・医療事務・ 建設簿記等のOA化に対応できる経理のプロの育成 を目標としている。2学年では医療事務の授業で調 剤事務の資格取得の指導を行っており、平成25度 からは県外企業研修を実施する。

情報ビジネス科は、情報処理に関する高いスキルを身につけ、ビジネスの現場でその能力を発揮できる人材の育成をめざしている。3学年の授業「総合実践」において、地域の方を対象とした「南商無料パソコン講座」を実施している。

さらに、本校では資格取得や検定の指導にも力を 入れており、放課後や夏休み等を利用した課外講座 を積極的に実施している。

また、通常の学習活動の他に、部活動の面においても日頃から生徒たちが熱心に活動しており、様々な成果をあげている。

本校では、体育系・文化系の部活動の他に、商業高 校の特色を生かした商業系の部活動がある。

商業系の部活では、毎年、簿記部・ワープロ部・ コンピュータ部・珠算部・電卓部・マーケティング 部の生徒たちが県大会等の予選を突破し、県代表と して九州大会や全国大会に参加している。

また、文化系の部活動にはボランティア部・音楽 部・軽音楽部・ピアサポート同好会等があり、学校 内外の催事等で活躍している。

体育系の部活動は、野球部・サッカー部・ソフト テニス部・女子バレーボール部・女子バスケット ボール部・男女バドミントン部・ボウリング部が熱心に活動している。また、過去10年間では、次の通り本校の部活動が成果をあげている。

平成16年度の沖縄県高等学校総合体育大会において陸上競技1500Mと3000Mの部で浜川 円が優勝を果たすとともに、全九州新人陸上競技大会においても1500Mで3位入賞(4分23秒77県新記録)の成果をおさめた。県高等学校新人体育大会では男子ソフトテニス部の玉城達貴・神谷吉範ペアが個人優勝を果たしている。また、女子駅伝部は、沖縄県高等学校女子駅伝競技大会において初優勝を果たし、全国大会に出場した。女子駅伝部は県高校新人駅伝競技大会においても初優勝であった。

平成17年度も県高等学校総合体育大会のソフトテニス競技において玉城達貴・神谷吉範ペアが優勝、陸上競技において新垣佳織が800Mと1500Mで優勝、仲間干華が3000Mで優勝を果たし、陸上競技女子総合3位の成果をおさめた。さらに女子駅伝部は県高等学校駅伝競技大会・県高校新人駅伝大会において前年度に続き優勝している。また、男子ソフトテニス部が九州予選を突破し、全日本高等学校選抜ソフトテニス大会に九州代表として参加した。平成18年度には陸上競技において新垣佳織が1500Mで優勝を果たすとともに、団体でも女子陸上競技の総合成績3位であった。

平成19年度からはボウリング部が成果をあげており、平成20年度の県高等学校総合体育大会おいてボウリング競技男子団体準優勝・女子団体準優勝の成果をおさめている。

平成23年度の県高等学校総合体育大会ボウリング競技女子個人において井上真乙が優勝、男子個人で比屋根徳人が2位の成果をおさめている。また、県高等学校新人体育大会においてもボウリング競技団体の部で初優勝を果たしている。以降、ボウリング部は平成24年度の県高等学校総合体育大会女子団体の部優勝、県高等学校新人体育大会では男子団体優勝・女子団体優勝の好成績を収め、平成25年度の県高等学校総合体育大会においても、女子団体優勝を果たすなど活躍は現在も続いている。

このように、本校では商業の専門的な知識・技能の習得を目指した学習活動を行うとともに、部活動を通して生徒たちの「豊かな心」と「健やかな体」の育成を図り、将来、地域を支え本県の産業と経済の発展に貢献できる人材の育成を目指している。



我が校の学校紹介

南部農林高等学校

本校は、昭和23年度に設置認可を受け、平成25年度で65周年となり、輝かしい農林高校として沖縄県の農業の発展に尽くしてきました。さらに卒業生を社会に送り出すと共に、各分野で活躍されている大先輩達が多く、さらに諸外国においても大いに活躍している昨今です。

長い歴史の中で、平成22年度に於いて学科改編が行われ、6学科が閉科に成り、5学科に編成され食料生産科、生物資源科、食品加工科、環境創造科、生活デザイン科の新たな南部農林高等学校がスタートしました。

農業学校関連の活動として、日本学校農業クラブ連盟がありその大会として沖縄大会、九州大会、全国大会と3つの大きな大会が、毎年開催され本校の農業クラブは各大会において、優秀なる成績を収め、九州大会、全国大会に毎年県代表として出場し、好成績を残している県内においても素晴らしい農林高校である。さらに生徒たちは、授業が終わってから管理当番が組まれ、植物への水かけや動物の飼育管理等の実習が毎日あり、長期休みも管理当番が組まれ農業に取り組む姿勢は素晴らしいです。

さて、本校の高体連関係を過去10年を振り返っ てみると

平成16年度

新人大会、自転車競技優勝

平成18年度

総合体育大会、柔道(個人)90kg優勝 新人大会、レスリング96kg級優勝

平成19年度

総合体育大会、レスリング120kg級優勝

平成20年度

新人大会、柔道70kg級2位(女子) ボクシング競技 モスキート級3位 高等学校ボクシング選手権大会 モスキート3位、バンタム級2位

平成21年度

総合体育大会、ボクシング競技 ライトフライ級3位 フェザー級3位 新人体育大会、 レスリング競技84kg級優勝 ボクシング競技 ライトフライ級優勝、フェザー級優勝、 モスキート級3位

平成22年度

新人大会

ウエイトリフティング 56kg級優勝 53kg級優勝

平成23年度

総合体育大会

ボクシング競技フライ級優勝 ウエイトリフティング 56kg級 2 位 63kg級 3 位

本校は、個人種目競技の方で素晴らしい好成績を 過去に残してきているが、最近の本校の実情という と、ほとんどの部が休部状態で、各種大会参加も危 ぶまれる状態であるが部活動の活性化を前面に打ち 出し特に運動部の強化に全職員で取り組んでいる。



文武両道を目指して

名護高等学校

本校は、昭和3年に創設された県立第三中学校及 び昭和5年に設立された県立第三高等女学校を前身 としており、80余年の歴史をもつ伝統校です。校 訓である「知性を研こう 感性を鍛えよう 個性を育 てよう」と、校是である「文武両道」の精神をもって、 広大な敷地と緑豊かな学習環境(平成23年度に環 境緑化において文部科学大臣賞受賞)の中で、生徒 は日々、学業と部活動に励んでいます。現在のクラ ス数は各学年普通科8クラスで、960名が在籍して います。部活動はたいへん盛んで、体育系部が26、 文化系部が10あり、加入率は毎年80%を越えてい ます。また生徒の進路については大学進学希望者が 多く、平成24年度は、卒業生の55%にあたる175名 が大学に進学しました。そのうち国公立大学合格者 が52名と、過去30年間で最高の結果を残しました。 今後とも校是である「文武両道」の実践に努め、生 徒一人一人が時間の大切さを認識し、学業及び部活 動に、より高みを目指して邁進しています。

さて、本校は創立当初より体育系部の活躍が目覚ましく、特筆すべきものに空手道部女子個人組手全国大会準優勝、男子ソフトテニス部全国大会ベスト4、復帰年における野球部の甲子園春夏出場などがあります。過去10年間においても多くの部が県大会を制覇し、優れた実績を残しました。以下に記したのは、主に高校総体、新人大会で優勝、準優勝の成績を残した部です。県大会ベスト8以上の部をあげると、殆どの部が該当します。特に高校総体において平成18年度は総合5位、19年度は総合3位という好成績を残しました。このように本校は、文武両道の王道を歩み、今後の活躍も期待できます。

平成16年度~25年度の実績

<男子ソフトテニス部>

- · 高校総体団体 優勝 6 回 準優勝 3 回
- · 高校総体個人 優勝6回 準優勝6回
- ·新人大会団体 優勝 4 回 準優勝 3 回
- ·新人大会個人 優勝3回 準優勝4回
- <女子ソフトテニス部>
- · 高校総体団体 優勝6回 準優勝3回
- · 高校総体個人 優勝7回 準優勝5回
- ·新人大会団体 優勝5回 準優勝3回
- · 新人大会個人 優勝3回 準優勝5回
- ・平成16年第34回九州新人ソフトテニス大会優勝

くラグビー部>

- · 高校総体 優勝 6 回 準優勝 4 回
- ·新人大会 優勝5回 準優勝4回
- ・全国高校ラグビーフットボール大会県予選 平成12年度~22年度 11年連続優勝 全国大会(花園大会)11年連続出場 平成18年度第86回大会3回戦進出(ベスト16) <女子サッカー部>
- · 高校総体 優勝2回 準優勝1回
- ・新人大会 優勝2回 準優勝1回
- <空手道部>
- · 高校総体 女子団体組手 優勝1回
- · 高校総体 女子個人組手 優勝1回 準優勝1回
- · 高校総体 女子個人型 準優勝1回
- · 高校空手道選手権大会

女子団体組手優勝1回 女子個人組手優勝1回 <陸上・駅伝部>

・高校総体・新人大会等において優勝者を輩出した 種目

800m、1500m、3000m、3000m競歩、 5000m競歩、やり投げ、棒高跳び

- · 高校駅伝競走大会 女子 優勝3回
- ·高校新人駅伝競走大会 女子 優勝3回 <水泳部>
- ・高校総体・新人大会等において優勝者を輩出した 種目

50m自由型、100m自由型、200m自由型 100m背泳ぎ、200m背泳ぎ

<ゴルフ部>

- · 高校総体個人 準優勝1回
- ·新人大会 女子団体 優勝1回
- ・県高校対抗ゴルフ大会 団体 優勝2回
- <相撲部>
- ·高校総体 無差別級 優勝 1 回、115kg級 優勝 1 回 軽量級 優勝 1 回
- <男子ソフトボール部>
- ·新人大会 準優勝1回
- <過去10年間の高校総体・新人大会等においてベス

ト4進出を果たした経験のある部 (3位・4位)>

男子バスケットボール部

男子サッカー部

男子バレーボール部

女子バレーボール部 (九州大会出場)

野球部 (九州大会出場)



本校の体育系部活動の足跡

名護商工高等学校

本校は、県立学校編成整備計画により、県立北部工業高等学校と名護商業高等学校が再編統合し、平成19年度入学生から新生「名護商工高等学校」として開校した歴史の浅い学校である。設置学科は、工業系、商業系、情報系の三分野である。平成25年度に商業系の学科改編が行われ、改編後の設置学科は、工業系に生産システム科、電建システム科(電気技術コース、建築技術コース)。商業系に商業科(オフィスビジネスコース、ビジネス情報コース)、地域産業科(ファイナンスコース、観光コース)、情報系に総合情報科の5学科6コースとなり、新たにスタートしたところである。

校訓に「自主・創造・飛躍」を掲げ、国際的視野 に立つ平和で活力ある社会の形成に寄与する人材の 育成を目標とし、全職員で取り組んでいる。

現在、体育系の部活動には、バスケットボール男子、バレーボール女子、サッカー (男・女)、ソフトテニス男子、野球、陸上、カヌー、ラグビー、バドミントン女子、ボクシング、テニスの11競技があり、多くの生徒が毎日練習に励んでいる。

●平成19年(2007年)

県高等学校総合体育大会 自転車競技(女子ロードレース優勝、500mタイムトライアル2位、2kmインディヴィディアルパラシュート2位、スプリント2位/男子ロードレース2位、4km速度競争4位/全九州高等学校総合体育大会(自転車競技)男女出場/全国高等学校総合体育大会(自転車競技)男子4km速度競争出場

県高等学校新人体育大会 サッカー競技男子3位

●平成20年(2008年)

県高等学校総合体育大会 ウェイトリフティング競技女子個人48kg級3位

県高等学校新人体育大会 ウェイトリフティング競技女子個人48kg級3位、69kg級5位/第17回全九州高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会女子個人48kg級、69kg級出場

●平成21年 (2009年)

県高等学校総合体育大会 ウェイトリフティング競技男子個人62kg級6位、94kg級6位

●平成22年(2010年)

全国高等学校総合体育大会 カヌー競技女子カヤック500M、200M出場/ソフトテニス男子個人出場県高等学校新人体育大会 ソフトテニス男子団体優勝、個人3位/陸上競技男子やり投げ優勝/カヌー

競技女子カヤック優勝

九州高等学校ソフトテニス選手権大会男子個人出場

●平成23年(2011年)

県高等学校総合体育大会 ソフトテニス男子団体 3 位、個人優勝/陸上競技男子やり投げ優勝/カヌー競技女子スプリントカヤック500M優勝、同200M 優勝

九州高等学校総合体育大会 カヌー競技女子スプリントカヤック500M・200M出場/ソフトテニス男子個人ベスト8

南九州高等学校陸上競技大会 男子やり投げ3位 全国高等学校総合体育大会 ソフトテニス男子個人 出場/カヌー競技女子スプリントカヤック500M・ 200M出場/陸上競技男子やり投げ出場

県高等学校新人体育大会 ソフトテニス男子団体優勝、個人準優勝

九州高校新人ソフトテニス大会男子団体出場

●平成24年 (2012年)

県高等学校総合体育大会 ソフトテニス男子団体 3 位/カヌー競技女子カヤックシングル200M優勝・準優勝、同500M優勝、カヤックペア200M優勝、同500M優勝

九州高等学校総合体育大会 ソフトテニス男子個 人出場、カヌー競技女子カヤックシングル200M・ 500M出場、カヤックペア200M・500M出場

全国高等学校総合体育大会 カヌー競技女子カヤックシングル200M・500M出場、カヤックペア200M・500M出場

九州高等学校新人大会 カヌー競技女子カヤックシングル500M出場、カヤックペア500M出場、/ソフトテニス男子個人出場

●平成25年(2013年)

県高等学校総合体育大会 カヌー競技女子カヤックシングル200M優勝・2 位・3 位、同500M優勝・2 位・3 位、同500M優勝・2 位・3 位、カヤックペア200M優勝、同500M優勝 九州高等学校総合体育大会 カヌー競技女子カヤックシングル200M・500M出場、カヤックペア200M・500M出場

全国高等学校総合体育大会 カヌー競技女子カヤックシングル200M・500M出場、カヤックペア200M・500M出場



創立 40 周年に向けて

西原高等学校

本校は昭和49年11月に発足し、平成26年11月1日で創立40周年を迎える。設立当初は普通科10クラス450名でスタート。昭和52年10月には校歌歌詞が決定、平成元年には校訓「自主・敬愛・創造」を制定するなど、西原高校のアイデンティティーとして、脈々と現代の生従達にも受け継がれている。

設立当初から部活動で頭角を現したのは、男子バレー部、サッカー部で、その活躍ぶりは39年を経た現在も息づいており、九州大会、全国大会でも、強豪西原高校を印象付けている。

昭和62年の第42回国民体育大会「海邦国体」の 開催を契機に、現在も活躍するマーチングバンド部 が結成され、4年に1度開催される世界音楽コンテ スト(WMC:オランダ・ケルクラーデ市)では、 今年平成25年に開催された大会で、5回連続金賞 受賞をはじめ、九州・全国大会でも金賞・グランプ リを受賞するなど、その実力は常に全国・世界で活 躍するほど高いレベルを維持している。

バレーボール男子、サッカー、マーチングの活躍に刺激されるように、近年では女子バレーボール、女子バスケットボールが県を制覇するチームに成長し、女子バスケットボール部は平成24年2月「第42回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会」、6月「全九州高等学校体育大会バスケットボール競技大会」の九州大会を制し、同年7月には、サンエー西原シティー内で九州大会二連覇報告会が盛大に開かれるなど、その知名度も年々高まってきている。

なかでも、平成24年度にはU-18全日本女子バスケットボール代表選手として、川上麻莉亜(平成25年3月卒)、全日本女子ジュニアバレーボール代表選手、山内美咲(平成25年3月卒)が選出され、世界大会で活躍したのは、沖縄県としても特筆に値する。

また、平成24年度、平成25年度はプロ野球ドラフト会議において、島井寛仁(平成21年3月卒)が楽天ゴールデンイーグルスから、又吉克樹(21年3月卒)が中日ドラゴンズから、それぞれ指名されるなど、個々人の能力や才能を開花させ大きく成長させる指導スタイルが確立されているのも、本校の特徴ともいえるコース制のカリキュラムや経験豊かな指導者が揃っている所以だと言える。

これまでにも運動部では、なぎなた、空手、ヨット、ゴルフが、文化部では、写真、放送などが全国

大会に出場してきたが、近年ではソフトテニス、テニス、水泳、野球などが年々力をつけており、九州・全国を狙う。それに刺激されるように、女子バドミントン、女子サッカー、ダンスも精力的に練習に励む姿がみられ、頼もしい次第である。

また、昭和50年に普通科10クラスでスタートした本校は、平成15年にコース制を導入、健康福祉(2)、情報(1)、国際文化(1)、文理進学(5)となった。

平成20年にはコースを改編し、現在の健康科学(2)、文理(5)、特別進学(1)となり、スポーツと進学、多様な進学にも対応可能なコースとなった。

平成26年度は、学校設立40周年を迎え、地域や中学校のニーズに応えるために、特別進学コースを1クラス増やし、それに伴い文理コースを1クラス減じて、進学に更に力を入れるとともに、制服をモデルチェンジし、新生西原高校のスタートの年と位置づけている。

これまでの輝かしい実績を讃え、明るく伸びやかに前進しようとする校風、伝統を継承しつつ、地域 社会との融合・調和を図り、「文教の町」西原町の 基盤づくりに貢献し、更なる飛躍・発展を目指して いく。

(文責宮城光江)



